

平成27年度重点プロジェクト事業（海外派遣研究員旅費）報告

20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS Malmö 2015) における研究発表

伊藤 渉*

はじめに

平成27年6月24日から平成27年6月27日まで、スウェーデンのマルメにて開催された第20回ヨーロッパスポーツ科学学会（20th Annual Congress of the European College of Sport Science：以下、ECSS）に参加した。平成27年度重点プロジェクト事業（海外派遣研究員旅費）の助成を受け、ECSSにて大学院での研究成果の一部を発表する機会を得たので概要を報告する。

研究発表の概要

ECSSでの演題はポスター発表として採択された。E-ポスターでの発表であったため、学会期間中に会場に設置されたPCで自由にポスターを閲覧する形式がとられていた。「Training and Testing」というセッションにて、「A RELATIONSHIP BETWEEN SINGLE LEG TASKS AND SIDESTEP CUTTING IN MALE RUGBY PLAYERS -LATERAL HOP AND HOP-AND-SIDESTEP-」というタイトルで発表した。内容は「ラグビー選手の着地動作、外側ホップ動作、カッティング動作の関連性」について、3次元動作解析を用いて非接触型膝前十字靱帯（ACL）損傷のリスクと考えられる膝外反角度や膝外反モーメントを算出し、各動作間での違いや関連性を検討した。外側ホップとサイドステップ、ワンレッグホップサイドステップとサイドステップの間に関連性があることが分かり、カッティング動作でのACL損傷のスクリーニングテストには本研究で用いた片脚での動作課題が適することが示唆された。



E-ポスターでの発表の様子



他国の研究者との交流の様子

非接触型ACL損傷やカッティング動作に関する研究は多くのセッションで扱われており、ラグビー選手を対象とした演題も散見された。それらの演題の発表者とディスカッションし、自身の研究へのアドバイスをもらうこともできた。ラグビーに関する演題があるのもヨーロッパの学会ならではのであり、ラグビーの強豪国の南アフリカやニュージーランド、オーストラリアの研究者から意見をもらう貴重な機会となった。

* 鹿屋体育大学 大学院体育学研究科 博士後期課程3年

おわりに

私の研究テーマの対象であるラグビーについての研究は国内では盛んとはいえないため、ヨーロッパでの国際学会で発表でき、意見を交換できたことは大変有意義であった。私の研究が国際的に認知されるためには、発表内容を論文化し、国際誌に投稿することが必須である。その上で、国際学会で定期的な発表を行うことが重要であると感じた。

本学会への参加および発表にご理解とご支援をいただいたことに、深く感謝する。